

## 「まちづくり懇談会」意見一覧(栗熊コミュニティセンター)

番号	意見趣旨	回答趣旨
1	新市の中で栗熊地区にどのようなビジョンを持ってまちづくりを進めていくのか？	これからみなさんと考えていくこととなる。意見をお願いします。
2	合併前の綾歌町時代から綾歌保健福祉センター横に特別養護老人ホーム用地を確保している。栗熊地区の住民は、その施設を望んでいるので新市で推薦いただいて国の指定を受けたい。	特別養護老人ホームは、県での認可となる。県では、検討の余地はあるが、軽々とは進められないとの回答である。
3	防災対策について、備蓄や避難所などの防災マニュアルを早く作っていただきたい。	現在、新市全域を対象とした防災計画を策定している。地域の方でも自主防災組織の立ち上げをお願いします。
4	平成16年9月に国の指定を受けた快天山古墳に対して、市の支援をいただきたい。	旧綾歌町の史跡整備計画を引き継ぎ、長期的に国の補助を受けながら整備していく。平成17年度は、整備用地23,000㎡の購入を予定している。
5	市中心部の公共施設の駐車場が少なく不便である。	広げればよいのは当然だが、財源等の問題もあるので、利用形態等を考えながら検討していく。
6	栗熊小学校は、1学年に1クラスで生徒数が少なく、教員も去年に比べ1名減となった。先生が病気や会議等のときは、子どもの対応できていないように感じるので、1名増やして去年と同数にしたい。	教員の数は、40人がひとつの基準となり県の教育委員会で決めているが、国では、5年くらいかけて教員を増やす考えも持っているようである。市で教員を配置することは、財政的にも難しいので県に要望していくが、いじめ等の問題があるようなら校長や教育委員会に話をしていただきたい。
7	綾歌町の教員は、旧綾歌町時代の会と新市での会があり、子どもに対する時間がとられているようである。	先生が子どもたちと接する時間は非常に大切である。綾歌町時代の会は、自主的な会と聞いているが、そのような意見があるのであれば、調査したい。
8	旧丸亀で行われる行事もあるので、コミュニティバスを充実し直行便を作っていただきたい。駐車場問題にも有効である。	コミュニティバスについては、利用者の便宜を図れるよう運行形態等について、秋から検討し来年4月から見直したい。
9	老人会も合併し、新市ではひとつの老人会として活動している。綾歌町時代の老人会では、老人会で出かけるときに町のバスを借りていた。新市でも、バスを借りることはできないか？	公用車のマイクロバスは新市で廃止している。綾歌町にあるバスも今年度中にどのようにしていくか考える予定であり、財政上厳しいことからすぐにはなくならないが、将来的には難しい状況である。
10	出来れば来年も懇談会を開催して欲しい。	要望が多ければ検討する。
11	財政が厳しいのは分かるが、夢のあるまちづくりをしていただきたい。	全部が全部締め付けるのではなく、必要なところには使って、我慢するところは我慢するというメリハリのある行政をしていきたい。
12	幼稚園は保育所の延長のような教育しかしていない。放課後児童クラブや保育所が夏休みもずっと子どもを見てくれるのは助かる。	綾歌幼稚園の現状は確認するが、親と一緒にいることも子どもには非常に大切なことだと考える。子どもにとって何が一番大切かをみなさんと一緒に考えて進めていく。
13	旧丸亀と綾歌では生活環境が違い、綾歌は三世帯同居なども多く、若いお母さんは働かざるを得ない。母親に限ることなく、父親・祖父母・家族の中で愛情を受けて育てば子どもは育つ。若いお母さん世代を助けてあげていただきたい。	若いお母さんが働くことを否定しているわけではない。そういう中での子育てをこれから考えていかなければならない。
14	指定ごみ袋のみに「取っ手」をつけていただきたい。	今後の反応を見て検討していきたい。
15	環境美化委員、ごみ減量化推進委員の役割を教えてください。	環境美化とごみ減量化は共通の認識により、新しいごみのないまちを目指すということで、地域のごみに対する情報を提供やご意見をいただいて、地域のごみ問題を解決していきたい。